

会 議 録

会 議 名	令和5年度文化によるまちづくり推進委員会（第1回）	
開 催 日 時	令和5年8月25日（金） 18時～19時30分	
開 催 場 所	不二輸送機ホール 研修室	
出 席 者	岸田 茂、比嘉 朝康、廣田 由実、池上 雅代、東原 秀一、縄田 也千、伊藤 久美子、脇本 忠典、竹内 道子、松永 進、湯城 明彦、塩田 賢二	委員数 15人 出席者数 12人 欠席者数 3人
欠 席 者	齊藤 大二郎、穂本 真一、八橋 裕起	
事務担当課及び職員	協創部文化スポーツ推進課 協創部：篠原部長 文化スポーツ推進課：原田課長、別府 / 文化会館 山本館長	
会 議 次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 辞令交付 2 協創部長あいさつ 3 委員及び事務局の自己紹介 4 委員長、副委員長の選出について 5 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 山陽小野田市文化芸術振興ビジョン及び前期行動計画について (2) 令和4年度文化振興事業について 6 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和5年度文化振興事業について (2) 令和6年度以降の文化振興事業について 7 その他 	
事務局	次第4 委員長、副委員長の選出について 推進委員の互選により 委員長は <u>岸田 茂委員</u> に決定。 副委員長は <u>縄田 也千委員</u> を指名し、決定。	
事務局	次第5 報告事項 (1) 山陽小野田市文化芸術振興ビジョン及び前期行動計画について 山陽小野田市文化芸術振興ビジョン及び前期行動計画について、概要を説明。 (2) 令和4年度文化振興事業について	
委員	(1) に続き、 <u>資料1</u> に沿って説明。 資料1については、時系列になっているようだが、「ガラス」「かるた」「アウトリーチ」といったカテゴリーごとに分けてまとめるとわかりやすいかと思う。	

事務局	承知した。
	<p>次第6 議題</p> <p>(1) 令和5年度文化振興事業について</p>
事務局	資料2に沿って説明。
委員	令和4年度と5年度とで、何か変わった点はあるのか。また、前期行動計画の3ページの一番下にある「○具体的なプログラム (4)各種イベント等とのコラボレーションの取組」についてはどう考えているのか。
事務局	令和4年度と5年度の事業については、特に大きく変わった点はなく、令和4年度から新しく取組を開始した事業もあるため、まずはそれらを継続する方向である。また、御指摘のあった「各種イベント等とのコラボレーションの取組」については、現段階では検討している状態である。
委員	資料1だが、1月に開催の「山陽小野田市児童生徒書道展」が漏れている。また、資料2については、これは市の主催ではなく、文化協会との共同主催であると思う。
事務局	資料の記載漏れ及び誤記については、お詫びして訂正する。正しくは以下のとおりである。
	<p>資料1 (追記) 第18回山陽小野田市児童生徒書道展</p> <p>開催日 令和5年1月26日(木)～2月1日(水)</p> <p>区分 共催</p> <p>場所 おのだサンパーク 2階大催事場</p> <p>備考 令和5年1月24日(火) 審査会</p>
	<p>資料2 (修正) 第19回山陽小野田市児童生徒書道展</p> <p>山陽小野田市文化協会との共催事業のため</p> <p>区分 「共催」が正しい。「主催」は誤記。</p>
委員	資料2について、令和6年3月9日(土)に開催の「アラ還フェスティバル PART XIX」の記載が漏れている。
事務局	重ねてお詫びする。委員の皆様には以下のとおり追記をお願いしたい。
	<p>資料2 (追記) アラ還フェスティバル PART XIX</p> <p>【全国生涯学習音楽指導員協議会山口支部主催】</p>

	<p>開催日 令和6年3月9日(土) 区 分 共催 場 所 不二輸送機ホール(大)</p>
委員	<p>(2) 令和6年度以降の文化振興事業について 前期行動計画の、基本目標①6 ページ上段に「○行動計画(2) 学校における体験学習の充実」とあり、今年度は「企画・調整」とある。 また、基本目標②8 ページ上段に「○具体的なプログラム 担い手の育成・若手芸術家の活動支援」とあり、今年度は「調査・検討」とある。 さらに、9 ページ目の重点プロジェクト②-2 中段に「(1) コーディネーターの確保と活用」及び「(2) 推進組織の形成と連携体制の構築」とある。 それぞれ今年度は「調査・検討」ということだが、現在の進捗状況を知りたい。</p>
事務局	<p>それぞれ前期行動計画に沿って進めていくため、予算化に向けて、まずは委員の皆様からの御意見を頂戴し、集約したものを反映していきたいと思う。</p>
委員	<p>前期行動計画の5 ページ下段「(2) 学校における体験学習の充実」のうち、ガラス体験教室は、出張で講師が学校に来て体験できるものと、バスで学校からきららガラス未来館に赴く体験があり、後者は本ページに記載がないようだが、両方とも学校として大変ありがたい取組だと思っている。また、かるたについても、児童用のタブレット端末に小倉百人一首が入れてあり、子どもたちが出前授業で習ったことを復習できる仕組みがあることも普段から子どもたちが文化に触れるという点で充実しているのではないかと思う。</p>
委員	<p>資料1の3 ページ目下段にある「アートのたまてばこ」とは何か。</p>
事務局	<p>市内で活動されているさまざまなジャンルの芸術家のみなさんをお呼びして、コラボレーションするというイベントである。令和4年度については、この不二輸送機ホール(小)を会場として、例えば音楽のコンサートを聴きながら絵画や書の作品も鑑賞できるというような仕組みである。</p>
委員	<p>補足だが、開けたら何が出てくるかわからない楽しさがあるところから「たまてばこ」という名前をつけた。小ホールを家のリビングのように</p>

	見立てて、写真や絵や陶器などの中に音楽を取り入れた形となっている。
	次第7 その他
委員長	(1) 資料 山陽小野田市協創によるまちづくり提案事業補助金交付要綱について これはふるさと納税の「ガバメント・クラウドファンディング」を活用し、協創の考え方を共有した市民活動団体等に、集まった寄附金を補助金として支援する制度である。 委員の皆様にも本制度を御理解いただき、ぜひアンバサダー（広告塔）になっていただきたいと思います。
委員長	(2) 資料 アンケートについて（委員長提案①） 本市での文化イベントはこれまでも数多く開催されているのに、ほとんど人が来ないという問題に直面している。この現状をどうしたらいいのかずっと悩んできたが、その答えを探す1つのツールとして、文化によるまちづくり推進委員会から市民を対象にしたアンケートを実施してはどうだろうか。 なお、アンケートの内容は今後本委員会で詰めていきたいと考えている。
委員	小中学校生徒及び保護者については、児童用のタブレットを使用すれば電子アンケートという形でとることは容易である。 内容については、催し物に「どうしたら行きたくなるのか」を集約した方が良いかと思う。
委員長	(3) ワークショップについて（委員長提案②） 本委員会委員を3つのグループに分けて、それぞれがテーマに沿って協議していきたいと考えている。 まずは、我々が「山陽小野田市の文化とは何か」を語らなければならないのではないかと考えている。
委員	アンケートの実施については賛成である。小野田商工会議所青年部で今年1月に山陽小野田かるた協会に御協力をいただき、かるた体験イベントを開催した。商工会議所職員の家族の参加が中心だったが、中には「山陽小野田市がかるたの文化の振興に力を入れていることを知らなかった。」という方も多かった。なので、もっと情報発信に力を入れていき、知ってもらえば参加も増えるのではないかと思う。

委員長	<p>貴重な意見だと思う。</p> <p>さらに、問題だと思っているのが、市民は、催し物、特にプロの演奏家による公演にはほとんど来ない。この現状はなぜなのか。委員の皆様の見解をいただきたい。</p>
委員	<p>確かに市外の来場者が多い傾向にあると思う。</p>
委員	<p>プロになると入場料が高額になるので、本当に好きな人はお金をかけて観に行くと思うが、お金を払ってまで観る価値を知らない（わからない）市民が多いのではないかと思う。</p>
委員長	<p>その通りだと思う。</p>
委員	<p>先日、現代ガラス展に行ったが、高校生以下が入場無料であったり、割引があったりと、内容を含めとても素晴らしい催し物であると感じた。しかし、過去回に比べると今回は来場者が伸び悩んでいるとも聞いた。これまで質の高い文化に触れてこず、大人になってもハードルが高いままになっている今の若い親世代やその子ども向けに、もう少しレベルを下げ、身近で親しみやすいところから入ってもらってはどうか。</p>
委員	<p>現代ガラス展のアンケートを集計している中で、「ガラス文化に触れる機会が少ない」という意見が多い。このようにアンケートを取ってみると課題が浮き出てくることが多いので、アンケートを実施することは賛成である。</p> <p>あと、山口東京理科大学の学生（及び教員）にLINEで無料の招待券を配布していただいたが、実際に来られたのは微々たるものだった。それと中高生は、特に（文化全般に）興味がない傾向にあり、声掛けして入場しても2、3分で出てしまうといった様子だった。</p>
委員	<p>山口東京理科大学の授業で、きららガラス未来館の先生をお呼びして講義をしてもらったことがある。また、それとは別で現代美術のことについての講義もしたが、学生の反応が良く、興味を持ったという声が多かった。</p> <p>やはり若い世代には、こちらから情報を届けていけないといけないのではないかと思う。当然一朝一夕にはいかず、ある程度の時間がかかるもので、積み重ねが必要であると思う。</p>

委員長	山陽小野田市文化協会の主催で、令和6年2月10日（土）に北九州グランフィルハーモニー管弦楽団によるコンサートを開催する予定にしている。山口東京理科大学の学生にぜひ来てもらいたいと演奏曲も工夫している。
委員	これまで文化協会の主催事業でも来場者が少ないという問題に加え、後継者不足や高齢化等の問題も年々深刻になっている。 元々、文化はジャンルが数多あり、近年は「アニメ」や「ダンス」等、新しい文化も増えているので、いかに子どもたちに文化に触れていただくかを考えていくべきだと考えている。
委員	今の子どもたちは、美術館や博物館に行って鑑賞することが苦手な子が多い印象がある。さきほども意見があったように、文化が根付くには時間がかかるので、鑑賞の仕方等、地道に教育していくしかないと考えている。
委員	<p>現代ガラス展の監視員をしていたとき、家族5人で作品1つ1つをじっくり鑑賞する家族もいて、その子どもが目を輝かせていたのがとても印象的だった。一定数、文化に関心がある層はいると思う。</p> <p>前期行動計画にあるコーディネーターの存在は非常に重要であると思う。また、アンケートは、目的を持った内容にし、結果を集約してどう行動するかが重要だと思う。</p> <p>結論</p> <p>○アンケートは実施する方向で、内容については事務局で案を作成する。</p> <p>○全委員15人を最大5人程度の3つのグループに分け、それぞれ長を決定する。（事務局が各グループに1人入る。）</p> <p>班長候補：①縄田也千副委員長 ②湯城明彦委員 ③脇本忠典委員</p> <p>なお、各班で1回会議を実施する。</p>
事務局	<p>次回の全体の会議については、来年2月頃に改めて日程調整をさせていただきますので、御協力をお願いしたい。</p> <p style="text-align: center;">～終了～</p>